

【水の里の旅コンテスト 2022 応募企画】

【一般部門】

一般社団法人埼玉県物産観光協会

『春日部で夏休み 発見！体験！川の国ツアー』

(観光地域：埼玉県 春日部市)

【日程】	日帰り		
【実施時期】	夏		
【催行人員】	20名(最小催行人員：15名)	【お勧めする旅行者層】	ファミリー層(親子参加型)
【旅行代金】	8,500円 (大人1名)	【代金内訳】	バス代金 首都圏外郭放水路見学会参加料(地下神殿コース) 野口農園体験料(ブルーベリー狩り、おにぎり作り、ピザ)
【企画趣旨(伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
<p>【「水の里の旅」の要素】</p> <p>ツアー冒頭の「川の国授業」で、地形的な特徴を中心に説明しながら春日部が「川の国＝水の里」であることを伝えたいと、具体的な事例として川とのかかわりがある各施設を訪れる行程となっており、地域の発展を支えた農業と物流に水資源が大きな役割を果たしていたことをはじめ、川とともにある春日部の特色を改めて知ることができる。</p> <p>【地域とのかかわり】</p> <p>当初、「埼玉県東部地域の観光魅力度の向上」と「子どもへの観光教育」を目的に、春日部市観光振興課と協議のうえ企画を進め、立ち寄り先各施設とも意見交換の機会を設けながら準備にあたった。</p> <p>春日部市にとっても主体的に関わる初めての有料でのツアーで、主催した当協会でも通常の枠組みでの販売のため別途広告宣伝費等の措置を設けなかったことから集客上の懸念があったものの、発売から数日のうちに満席となった。立ち寄り先各施設においても通常営業の範囲内での対応が基本となっており、継続実施可能と考えられる。</p> <p>【旅行者の満足度向上を目指して】</p> <p>「クレヨンしんちゃん」「ベッドタウン」のイメージを持つ人が多い春日部の、歴史と町の発展にとって川が大きな存在であることを、各施設でのガイドと体験を通して楽しみながら学ぶことができる。</p> <p>景観が特徴的な防災施設の見学、15代続く稲作農家でのおにぎり作り体験、学芸員の解説付きで宿場町の面影をたどる歴史散策などの地域に根付いた観光資源を「川」という共通テーマのもと周遊するツアーとなっている。</p> <p>河川改修により農地の開発や宿場町の整備が進んだことが今日までの地域の発展をもたらした一方、その生活は洪水の危険性とともにあつたことが「防災地下神殿」の建設につながったことを、それぞれの現場を訪れ、学び体験することで理解を深めることができる。</p> <p>実施に際しては立ち寄り施設協力のもと行程中の安全の確保に努め、公道の徒歩移動についても添乗員を中心に注意を払った。</p>			
【催行実績】	有：8月4日(木)、8月18日(木)		

【 行 程 表 】

春日部駅西口(集合) === 首都圏外郭放水路(龍Q館にて川の国授業、「地下神殿コース」見学) === 野口農園(ブルーベリー狩り、おにぎり作り体験、昼食、動物とのふれあい体験) === 古利根公園橋 === 宿場町「粕壁宿」の歴史散策 === 春日部市郷土資料館(一日の振り返り、館内自由見学にて解散)

【主な観光ポイント(観光地・観光箇所の歴史、由来、土産物など)】

ポイント1		<p>【龍Q館(「川の国」授業)】</p> <p>各施設での見学・体験に先立ち、ツアーの大きなテーマとなる「春日部と『川』」について、春日部市郷土資料館の学芸員が解説。春日部を流れる昔の川と今の川との違い、大雨が降ったときの川の状態の昔と今の違いを、地図を見ながら学習する。</p>
ポイント2		<p>【首都圏外郭放水路「地下神殿コース」見学】</p> <p>周辺地域の中小河川の洪水を地下に取り込み、地底50mを貫く総延長6.3kmのトンネルを通して江戸川に流す世界最大級の地下放水路の調圧水槽をガイド付きで見学。調圧水槽の大きさ、洪水を調節する仕組みや、水がなくなった後の大量の土砂を撤去する方法等、写真には写らない「地下神殿」の秘密に触れる。</p>
ポイント3		<p>【野口農園】</p> <p>江戸時代の河川改修により米の生産が盛んになった当地で15代続く農家が、食と農に親しんでもらえるよう観光客向けに開放している農園では、田んぼを転換して栽培した季節ごとに異なる作物の収穫・調理体験や、羽釜で炊いたご飯でおにぎり作り、米粉を使った窯焼きピザなど様々な楽しみ方ができる。</p>
ポイント4		<p>【「粕壁宿」の歴史散策】</p> <p>春日部市郷土資料館の学芸員の解説付きで、川に沿って発展した日光街道の宿場町の面影をたどる。</p> <p>伝統的な建物と現代の建物が混在する町並みを散策しながら宿場町「粕壁」と今の「春日部」の町の違いや、そこで暮らす人にとっての川の役割の変遷を知ることができる。</p>
ポイント5		<p>【春日部市郷土資料館(一日の振り返り～自由見学)】</p> <p>春日部市の歴史を旧石器時代から近代・現代まで時代順に展示した施設。学芸員の解説付きで江戸時代の粕壁宿を再現したジオラマを見ながら散策してきた道のりをおさらいすれば、面影をたどった町並みと重ね合わせることでよりリアルな風景として眺めることができ、春日部の新たな一面(川の国=水の里)を印象付ける旅の締めくくりとなる。</p>